

1 主題名 正直に伝えるよさ A- (2) 正直, 誠実

2 教材名 「1本のアイス」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本学習の課題は「過ちを犯したときには素直に反省し、正直に伝えようとする心情を育てる」である。小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編（平成29年告示）では、「自己の過ちを認め、改めていく素直さとともに、何事に対しても真面目に真心を込めて、明るく楽しい生活を心掛けようとする姿勢をもつことが大切である」と示されている。

人は過ちを犯したとき、自己保身からうそをついたりごまかしたりしてしまうが、それは一時しのぎのものに過ぎない。後から、後ろめたい気持ちや自責の念が生まれ、明るい生活が送れなくなる。児童が、過ちを素直な心で反省し、正直に言うことのよさに気付くようにすることで、明るく元気な生活をしていこうとする気持ちを育てたい。

(2) 児童の実態

この時期の児童は、友人関係も広がり互いに関わり合って活発に活動する事が多くなる。そのような生活の中で、自分のことを中心に考え、都合の悪いことはうそをついたりごまかしをしたりしてしまうことが少なくない。

正直、誠実に関する実態調査（令和4年*月*日実施 3年*組*人）

項目	回答（人数）
1. うそやごまかしをしてしまったことがありますか。	はい（*人） いいえ（*人）
2. それはどんなときですか。	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題をまだやっていないのに、やったと言った。 ・掃除をさぼってしまったのに、先生に「やりました」と言った。 ・ゲームをやっていたのに「やっていない」と言った。 ・お菓子をこっそり食べてしまった。 ・薬を塗りたくなくてうそをついた。 ・食べたいアイスを取られそうになったので、妹が倒れていると嘘をついた。

アンケートの結果、「うそやごまかしをしてしまった」の質問に54%の児童が「はい」と回答しており、日常的に嘘をついてしまっていることが考えられる。児童の様子を見ている意識をして「うそ」をついてはいない児童が多いが、教師が指摘すると、それが「うそである」と気付き自分事として捉えることができる。このことから、日頃「うそ」をつくという言動を自分事として捉えられていないことが分かる。そのため教材を通して、「うそ」について「怒られなくてよかった」と表面的に捉えるのではなく、正直に伝えるよさについて考えることで、明るい気持ちで生活することへの考えを深めていきたい。また、終末において、過ちを犯したときにどうすればよいかについて自分事として考え、正直に伝えることで明るく元気な生活をしていこうという心情を高めたい。

(3) 教材について（教材名「1本のアイス」出典：東京書籍）

本教材は、弟の分のアイスを食べたのに「食べてない」とうそをついた「わたし」が、やがて正直に本当のことを親に話すという内容である。後先を考えずに、ついアイスを食べってしまうといったことは、児童の生活体験の中でもありがちで想像しやすい内容である。親に話すまでの「わたし」の心の葛藤や、泣きながらもほっとしたときの気持ちを考えることを通して、正直であろうとする心情を育てたい。

(4) 指導観

導入では、事前アンケート結果をもとに、自分が過ちを犯したときにどうすればよいかについての問題意識をもてるようにする。展開では、アイスを食べたかどうか聞かれたときに自分ならどう答えるかについて、アプリの付箋機能を使用して表現する。考えを付箋の色で分けて示すことで、児童の考えを教師が把握する。それをもとにして話し合い、考えを深めていきたい。また、正直に話してほっとした主人公の気持ちをデジタルワークシートに記入して共有、比較することで、多様な考えを知り、正直に話す気持ちが明るくなることに気付かせていきたい。終末では、これから自分はどうしていきたいかを問い、正直に、明るく元気な生活をするについて考えさせたい。このように問題解決的な学習を通して自分の考えを深め、過ちを素直な心で反省し正直に伝えるよさに気付かせることで、明るく元気な生活をしていこうとする気持ちを育てたい。

5 本時の活動

- (1) 目標 過ちを犯したときには素直に反省し、正直に伝えようとする心情を養う。
 (2) 準備・資料 場面絵、パソコン（付箋機能アプリ、デジタルワークシート）、テレビ
 (3) 展開

学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の手立て、評価
<p>1 課題を提示し、正直について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 正直に生活することとは？ </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・うそをつくると怒られる。 ・うそは人を傷つけるときがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートの結果を提示し、うそをついた経験や、もやもやした気持ちを思い出させることで、本時の題材を自分事として捉えられるようにする。
<p>2 教材「一本のアイス」を読み、話し合う。</p> <p>○ お母さんに「アイスを2本食べていない？」 「アイスは、ほんとうに一本しか食べていないの？」と聞かれたとき、あなただったら、2本食べたことを言いますか。</p> <p>◎ 泣きながら、少しほっとしたのは、「わたし」がどう思っていたからでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 言えない <ul style="list-style-type: none"> ・怖いから。 ・怒られるから。 ・言わなきゃばれないから。 ・ごまかせると思ったから。 ○ 言える <ul style="list-style-type: none"> ・正直に話した方がいいから。 ・気持ちがすっきりするから。 <p>・正直に言ってよかったな。</p> <p>・嘘をつかなくてよかった。</p> <p>・気持ちが楽になった。</p> <p>・謝れてよかった。</p> <p>・怒られなくてよかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書の範読を流し、教師は児童の様子を観察する。 ・範読を途中で切り（p.53まで）、葛藤する場面の多様な気持ちを引き出すようにする。 ・話の流れを確認しながら、「わたし」の気持ちをおさえる。 ・自分だったら言えるか、言えないかを問い、アプリの付箋機能を使って、言えない人は水色付箋、言える人はピンク付箋、わからない人は黄色の付箋を貼り付けるようにする。 ・2つの考えについて話し合えるようにする。 ・デジタルワークシートに自分の考えを書き、友達の考えと比較することで、自分の考えを深められるようにする。 ・入力する時間を区切り、全員で友達の考えを共有する時間を確保する。 ・入力された考えに対して問いかけることで、多様な考えを引き出し、考えを深められるようにする。 ・「わたし」が正直に話したことによって、気持ちが明るくなったことを捉えられるようにする。
<p>3 学習を振り返り、これからの生活について考える。</p> <p>○ 間違いや失敗をした後に、これから自分はどうしたいですか。</p> <p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちがすっきりしたほうがいいので、正直に話す。 ・「わたし」のように気持ちをもやもやしたくないので、ごまかさなくて話す。 ・明るい気持ちで生活したいので、きちんと謝る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時での学んだことをヒントにしてデジタルワークシートに振り返りを書き、友達の考えを知ることによって、自分の考えを深められるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 正直に伝えようとすることの大切さについて考えている。 (コメント・発言) </div> <ul style="list-style-type: none"> ・正直についての経験を話し、正直に話すことのよさを実感できるようにする。